

8. カリフォルニア米積み出し港事情

カリフォルニアの米の主力積み出し港と言えば、米の主産地サクラメント平野の南端に位置するサクラメント港である。同港は、サクラメント平野に点在する精米所からの交通の便の良さ、埠頭倉庫の完備、荷役業者の米荷役への慣れ等々他の港に比較し極めて利点が多いといえる。しかし、日本向け MA 米の船積みに関しては、シーズン中に日本向け本船が輻輳する事に加え近年の倉庫使用料の値上げ等より、シッパーの間に、サクラメント港だけでなく他港を使用する動きが出て来た。そして現在、日本向け MA 米の積み出し港として、サクラメント港、ストックトン港の 2 港が使用されている。

8.1 サクラメント港 (Port of Sacramento, West Sacramento)

サクラメント港は、首都サクラメント市の西側 (West Sacramento 市) に在り、サンフランシスコ湾よりサクラメント川に通ずる航路を経由し、Golden Gate Bridge の北東 79 海里 (146km) に位置する内陸港である (1963 年開港)。港から伸びるサクラメント本船用水路 (Sacramento Ship Channel) は全長 47 マイル (75km) で水深 30 フィート (9.1m) といわれる。同港は、アメリカ西海岸唯一の米のバルク積み専用エレベーター (Sacramento Rice Elevator) を有する。袋詰め MA 米の船積みで使用されている埠頭倉庫 (Transit shed) は、No.2 Wharf に 2 棟 (No.2A 及び No.2B 倉庫)、No.7 Wharf に 1 棟 (No.7 倉庫) あり、各倉庫約 14,000 トンの米 (袋詰め) を仮置き出来る。日本向け米のシーズン中、日本向け米の荷役を請け負っているステベ SSA (Stevedoring Services of America) がサクラメント港とこれら倉庫の使用契約を結んでいる。

8.1.1 米荷役関連施設

埠頭倉庫 (Transit Shed)

1. No.2 Wharf
 バース：600 フィート (約 183m)、水深 35 フィート (10.7m)
 No.2A, 2B 倉庫：各 86,400 平方フィート (8,000 平米) x 2 棟
2. No.7 Wharf
 バース：600 フィート、水深 35 フィート
 No.7 倉庫：86,400 平方フィート x 1 棟
3. No.6 Wharf Open Apron
 バース：600 フィート、水深 35 フィート
4. Main entrance channel 水深 30 フィート (9.1m)

SACRAMENTO RICE ELEVATOR

所有主	: サクラメント港
稼動	: 1964 年
Pier No.1	: 600 フィート (約 183m)
水深	: 35 フィート
収容能力	: 22,000S/T (約 20,000M/T) メインピン 8 本 x 2,250 S/T

	スタービン 6 本 x 225 S/T
	スタービン 6 本 x 435 S/T
SHIPPINGBIN	: 2 本 x 100 S/T
積み込用ベルト	: 1 本
スパウト	: 3 ヶ所 計 3 本
秤	: CARDINAL MODEL 1 基
	最大秤量 15,000 ポンド (約 6.8M/T)
	最小目盛 10 ポンド
平均荷役スピード	: 500M/T / 時間 、 4,000M/T / シフト

8.1.2 袋詰め MA 米の本船荷役

袋詰め日本向け MA 米は、30kg 袋を吊りベルト付きの大袋 (スリングバッグ) に 42 袋づつ詰めた荷姿 (スリングバッグ当たり 1,260kg) と 1MT (1,000kg) の Tote Bag (ジャンボバック) の 2 種類である。これらのバッグがトラックにて精米所より港倉庫に搬入される。本船荷役はフォークリフトにてバッグを船側まで運び、スプレッドにバッグを掛け本船クレーンにて積み込む。スプレッドにはフックが 20 個 (2 列 x 10 個) 付いて、最大で 20 個を吊り上げる。1 ギャングの時間当たりの平均的荷役能力は、約 200 ~ 250M/T といえる。

8.2 ストックトン港 (Port of Stockton, Stockton)

ストックトン港は、サンフランシスコ湾 (Golden Gate Bridge) より東に本船航路にして 75 海里 (139km) の内陸 (サクラメント市より高速道路 I-5 にて南に約 90km) に位置する港である。ストックトン本船用水路 (Stockton Deepwater Ship Channel) の水深は、干潮時平均 37 フィート (35 フィート MLLW)、満潮時平均 40 フィートであり、Sacramento Ship Channel より深い。この為、45,000 ~ 55,000 トンクラスの本船運行には支障が無く、満潮時には満載の Panamax size 本船の出入港も可能である。

同港には本船 10 隻の接岸スペース (バース数では 13) があり、この内ドックサイドに埠頭倉庫 (Transit Shed) が有るバースは、Berth 5 - 6、Berth 7 - 8、Berth 9 であり、合計 50 万平方フィートといわれる。この他に貨物保管用の倉庫は 270 万平方フィートのスペースがあり、一般貨物、鉱石、セメント肥料等 (Dry bulk)、鋼材等の保管に使用されている。過去に日本の緊急輸入米そして一時 MA 米輸出に使用された埠頭倉庫は、その後雨漏り問題等が発生したこともあり近年 MA 米には使用されていない。ストックトン港は前記した施設に加え、第二次大戦以来アメリカ海軍が使用して来た地区 (ストックトン港の西側に隣接する Rough and Ready Island に在り、一般に West Complex と称される地区) に埠頭、埠頭倉庫及び保管倉庫を有する。

サクラメント港における本船の輻輳、倉庫料の割高感等を背景に、2000 年の MA 米シーズンになり、Rough and Ready Island の埠頭倉庫 (3 棟) が日本向けに使用された。

SSA (Stevedoring Services of America) が港の依頼により倉庫受け入れを行い、シッパー依頼により本船荷役を行っている。

8.2.1 2000 年より使用されている施設

埠頭倉庫	No. 17	約 13,500 トンの米保管が可能。
	No. 18	約 14,500 トンの米保管が可能。
	No. 19	約 13,000 トンの米保管が可能。

No.20 約 14,500 トンの米保管が可能。

No.805 約 20,000 トンの米保管が可能。(内陸部の倉庫 Off Dock)

水深 : No.18 及び No.19 倉庫のバース水深は 22 - 25 フィート、No.20 倉庫のバース水深は 30 フィート。サクラメント港に比べて浅い。

8.2.2 袋詰め MA 米の本船荷役

荷役はサクラメント港と同様な方法で行われ、荷役能力もほぼサクラメント港と同じと言える。